

図2 現代の印字体サンプル(各々, 上段が大文字, 下段が小文字)

ԱԲԳԴԵԶԷԸԹԺԻԼԽԾԿՀՁՂՃՄՅՆՇՈՉՊՂՊՁՌՍՎՏՐՅԻՓԳՕՖ  
աբգդեզէըթժիլխծկհձղճմյնշոչպղռսվարցւփքևօֆ

ԱԲԳԴԵԶԷԸԹԺԻԼԽԾԿՀՁՂՃՄՅՆՇՈՉՊՂՊՁՌՍՎՏՐՅԻՓԳՕՖ  
աբգդեզէըթժիլխծկհձղճմյնշոչպղռսվարցւփքևօֆ

図3 筆記体(Гарибян, 1958<sup>2</sup>より)

իւս, քք, ցց, րր, է է, Չչ, է է,  
ըը, քք, ԺԺ, իի, լլ, յյ, ԺԺ,  
յյ, հհ, Չչ, ղղ, ԵԵ, ՎՎ, ԶԶ,  
նն, քք, Ոո, Չչ, Մյ, Գգ,  
Ոո, Աս, Վվ, Մմ, Ռր, Կկ,  
Ոո, Վվ, քք, Լ, Օ, ֆ ֆ:

語で発音が違うものは、異なった転字表記となる。さらに、アルメニア共和国において正書法の改革が行なわれた結果、両言語の綴り自体にも違いが現われている(後述「文字改革」を参照)。文字の呼称は、新しい東アルメニア語での綴りと伝統的な西アルメニア語での綴りの両方をあげ、その読み方の違いを明確にするためにLC方式の転字を添えた。なお、アルメニア共和国では、非常に単純化された新しい文字呼称が存在する。これは、母音字に関してはその音をそのまま、子音字に関してはその音に◊を添加したものを呼称とするものである:a, bə, gə, də, e[je], zə, ē[e]など。また、アルメニア文字は数字の機能をもち、17世紀にアラビア数字が導入されるまで数字としても使われていた。

表2の36までがメスロブが考案した文字に相当する。最後の2文字、38e/37w ◊ ◊ と39e/38w Ֆ fは、12世紀になって導入された。前者はかつての二重母音աւ awを書き表わすために、後者は外来語を表記するためである。したがって、現在は38の文字があることになるが、元来、5 Է e + 34w Լ wの合字であった37e Լ evが、文字改革の際に1つの独立した文字としてアルファベットに追加されたため、東アルメニア語では、西アルメニア語よりも1つ多く、アルファベットを39字と数える。ただし、37e Լ evの文字には大文字がなく、その場合は5の大文字Ե eと30の小文字վ vの2字で表記する。また、文字34w Լ wは、東アルメニア語で独立した文字としてはもはや存在せず、母音uを表わす文字34e ու uに取って代わ

られた。西アルメニア語でも母音uは同じように表記するが、1つの文字としてではなく、従来通り、24 ո o + 34w Լ wの二重字(digraph)と見なされている。なお、後世になって追加されたこれらの4文字(34e, 37e, 38e/37w, 39e/38w)には、数字としての値はない。  
【文字と音】アルメニア文字は、原則的に1文字が1音を表わすアルファベットである。もともと母音字と子音字の合字である37e Լ evだけが、1文字で複数の音を表わす。ただし、母音字の中には、語の中で現われる位置によっては単音でなくなるものがある。5 Է eと24 ո oの文字は、語頭においては各々[je][vo]と発音され、それ以外の位置では[e][o]と発音される。同様に、5の文字をもともとその一部とする合字37eも、語頭では[jev]、その他の位置では[ev]となる。

Երևան e-r-ev-a-n, Երեւան\* e-r-e-w-a-n [jeɾevan] イエレヴァン(アルメニア共和国の首都)( \* 伝統的表記)

որոշ o-r-o-š [voɾoʃ] 確かな անորոշ a-n-o-r-o-š [anoɾoʃ] 不確かな [an- は否定を表わす接頭辞]

個々の文字の具体的な音価は表2に示した通りで、発音される音は文字で書かれるのが原則である。しかし、アルメニア語できわめて頻繁に現われる弱母音◊]は、それを表わすための文字 8 ր ◊があるにもかかわらず、表記されることが少ない。その理由は[◊]が音節構造や語の活用ないし派生関係からその存在が概して予想できる挿入母音(epenthetical vowel)だからである。母音◊]が文字 8 ր ◊によって明示的に表記される場合としては、1)それが唯一の母音である語、2)子音に後続されたm, n, lの直前の語頭、3)語末につく定冠詞、などがある。

- 1) րստ est 「...によれば」、ղր՞ Լօր՞ 「乾いた」
- 2) ընտանիք օntanik՞ 「家族」
- 3) գիրքը girk՞օր՞ 「その本」cf. գիրք girk՞ 「本」無表記的◊]が顕著に聞かれるのは、子音が連続するときである。音節の核になることができる母音◊]を間に挿入することで、そのままでは許容されない子音連続を分断し、語の音節を再構成することで発音可能にしている。